

# 第 1 回浜田市立学校統合計画審議会議事録

日 時：平成 30 年 5 月 10 日（木） 18：02～19：58

場 所：中央図書館 2 階多目的第 1 ホール

## 議事

- 1 会長あいさつ
- 2 資料説明（資料 1～資料 3）
- 3 協議事項
- 4 その他

### 1 会長あいさつ

事務局

ただいまより、本年度第 1 回の浜田市立学校統合計画審議会を開催させていただきます。

本日の会議だが、本日の委員の出席者は 9 名であり、委員の半数の 7 名以上の出席があるので、この会議は成立していることを報告させていただきます。

今回会場が図書館しかなく図書館になったが、図書館は飲食禁止のため、飲み物を今まで準備していたが、今日はなくて申し訳ないがよろしくお願ひしたい。

それでは、これからの議事進行については会長にお願いする。よろしくお願ひしたい。

会 長

夜遅いところご出席いただきありがとうございます。

今事務局から話があったが、この審議会も平成 29 年度に 4 回の会議を経て、本日が平成 30 年度第 1 回の審議会となる。

色々これまで視察をしたり、また色々な資料提供により、それらについての意見交換をしたり、様々な内容についてご相談を受けていただいた経緯があり、こうして平成 30 年度第 1 回の審議会を迎えたわけである。

この審議会は諮問機関である。色々な面を考慮しながら、1 つの方向性を示していかなければならない。

今日も色々な資料の提出をいただいている。今までの振り返りをしながら新たな出発をしていきたいと思っている。

また、色々なご意見をいただき、平成 30 年度に答申ができる様に進めていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

## 2 資料説明 (資料 1～資料 3)

会 長  
事務局

事務局から資料の説明をお願いします。

資料 1 をご覧いただきたい。平成 30 年度学校別児童数一覧表ということで、平成 30 年 5 月 1 日現在の数字となっている。

表に小学校 16 校、裏面に中学校 9 校の状況を載せている。

平成 30 年度の数字を学年別に載せている。その横に平成 29 年度ということで対比できるかたちになっている。小学校のところだと一番下の計のところの合計欄を見ていただくと、平成 30 年度の小学生の児童数が 2,553 名となっており、平成 29 年度は 2,580 名ということで今年度は前年度と比べて 27 名の減となっている。

同じ様に裏面の中学生の合計欄を見ていただくと、1,322 名が在籍しており、昨年度の生徒数が 1,362 名ということで 40 名の減となっている。したがって、児童生徒数の人数は 67 名の減となっている。

合計を出していないので申し訳ないが、表の平成 30 年度の小学生の人数が 2,553 名、裏面の中学生の人数が 1,322 名ということで、今年度の児童生徒数は合計で 3,875 名となっている。

同じく平成 29 年度は、小学生が 2,580 名、中学生が 1,362 名、合計 3,942 名ということで、平成 29 年度の時点で 4,000 名を切っているかたちである。今年度もさらに 67 名減で 3,875 名ということで今後も減少傾向にあるかなと心配しているところである。

会 長  
事務局

直近の児童数について説明があった。

続いて資料 2 の説明をお願いします。

資料 2 について説明する。小中学校の老朽化及び劣化状況についてである。

昨年 11 月に市内の小中学校 3 校の施設の様子を委員方に見学していただいた。その時は新しい国府小学校、石見小学校、雲雀丘小学校の 3 校を見ていただき、施設の違いを実感していただいたと思う。

それ以外の学校について老朽化、または劣化、経年劣化が著しい学校について一部ピックアップして写真で紹介したいと思う。写真のすべてを準備していないが、一部を掲載している。

1 番美川小学校から 4 番第二中学校までの 4 校を準備している。

美川小学校から説明する。A4 資料を見ていただきたい。美川小学校の配置図である。美川小学校は浜田市内田町に所在しており、第四中学校の隣に位置している。少し見にくいですが、管理・教室棟や、

屋内運動場の記載をしている。赤い色で引き出し線を付けているが、次の資料の写真と一致する様に写真の番号を付けている。

次の写真のページをご覧ください。

左側は昨年度実施した現状把握の調査結果シートである。左側は管理・教室棟の1棟から3棟の状況について記載しているものである。左端の欄には部位の名称、右側には劣化状況の主なものが記載されている。天井に雨漏り痕があるとか、塗装の剥がれがある等チェックが付いている。

美川小学校の校舎は昭和15年度に建築されており、77年経過した校舎である。屋内運動場は昭和48年に建築され、44年経過している。

資料右側は校舎の劣化状況のごく一部の写真を掲載している。左側の上は外壁のクラック、ひび割れが入っている。P-23は廊下の雨漏りの跡である。木造校舎なので懐かしい天井の様子だが、雨漏りの跡がある。

教室の中の壁にはクラックが生じている。下には生徒用のトイレの全景と書いてあるが、渡り廊下の屋根がメインで写っている。その屋根の錆びている状況を載せている。

次の資料が美川小学校の体育館だが、昭和48年に建築された古い体育館である。

写真を説明すると、左側上の写真が外壁のクラック、右側も外壁のクラック、ひび割れが生じている。

中ほどは内側の壁の雨漏りの跡である。下の写真は体育館のステージの正面である。ここはステージといっても木の箱を並べて置いた様な簡易なもので、舞台幕や緞帳といったものはない。そして柱にはクラックがある。

美川小学校のごく一部の写真を紹介させていただいた。

次は第四中学校である。美川小学校と同じく浜田市内田町に所在している。

配置図を見ていただくと、校舎に赤い印を付けているが、あとで出てくる写真を示している。屋内運動場や教室の写真を載せている。

次の写真の資料をご覧ください。

第四中学校は昭和29年度の建築で63年経過している。これも木造の校舎で古い校舎である。

右側の写真だが、左上の生徒用の昇降口を入れて教室に入るため

の階段である。右側は2階の教室の壁のクラック、天井も木造の古いものだが、教室の様子である。

外壁は補修の跡があり、色が変わっているが部分補修をした跡がある。つばさ学級の外壁のモルタル材が欠落しているところがあったり、ひび割れが多数見受けられる写真である。

次の資料が体育館の写真である。第四中学校の体育館は昭和36年度建築で、56年経過している。

上の写真は体育館の全景である。ここはまだアルミサッシではない窓になっている。体育館の屋根の錆び、それから床の膨らみといった写真があるが、床下からの湿気がすごくて床がたわんでしまっている。この前はボールが跳ねないということで、体育の授業に影響が出るので、中央部分を部分的に改修している。それから、体育館の控室への階段のクラック、隙間が生じている。

次は松原小学校である。松原小学校の配置図をご覧ください。松原小学校は浜田市浅井町に所在する。左側に管理・教室棟があり、右側に屋内運動場がある。

次の資料が校舎の写真である。昭和50年度建築で42年経過している。鉄筋コンクリートの建物なので、耐用年数はまだ経過しておらず、まだ年数はあるが、美川小学校と第四中学校と同様の低い評価、劣化しているという評価が出ている。

写真のページをご覧ください。音楽室の天井には雨漏りによるものだと思うがカビが発生している。右側はベランダの淵のコンクリートが欠落している。これは落ちたものではなく、落ちそうだったので叩いて撤去し、今は直してある状態である。

あとは内壁や外壁にひびが入っていたり、塗装が剥げたりしている。

次が松原小学校の体育館である。昭和52年度建築で40年経過している。

錆びの状況、また内側の屋根裏が全体的に錆びと書いてあるが、体育館の屋根が少しまだらになっていると思う。当時の結露防止剤を吹きつけてあるものが劣化して、風が吹くとふわふわ雪の様に降ってくる状態である。えんじ色のものがふわふわ降ってくる状態である。

雨漏りもあるので壁紙が大きく剥がれたり、クラックが生じたりしている。雨漏りをしているので屋根の改修工事をしたいが、中々屋根の改修工事には3,000万円近くかかるので、予定はしているが

すぐにはできない状況である。

続いて第二中学校の配置図である。原井町に所在している。同じ様に写真を掲載しているものを赤で示している。

写真の資料をご覧いただきたい。

昭和44年度建築で、48年経過している。松原小学校と同じく耐用年数はまだ経過していないが、劣化が激しい校舎になっている。

左上は屋上の手すりが破損して鉄筋が露出している状態である。それから集会室の壁のひび割れ。中ほどは職員玄関に上がる階段が、地盤沈下によるものと思われるが階段がずれている。校舎と階段のところにひびが入っている。また、外壁や犬走にもクラックが入っている状況である。

次が体育館である。昭和47年度建築の建物で45年経過している。これも体育館の軒裏の塗装が剥げてしまったり、屋根の錆びの写真を載せている。屋内運動場は比較的綺麗に見えるが、ロッカールームは古いものとなっており、天井の塗装が剥げてしまったり、漏水の跡があるといった様な状況である。

以上4つの学校について老朽等についてごく一部の写真を紹介したが、これらの学校は建物の目に見えるところだけではなく、見えないところ、いわゆるライフライン、下水道や電気設備、そういったところの劣化があり、不具合が出ている。

例えば給水や排水管の劣化がある。漏水しているということがある。浄化槽に故障があったりということもある。

これらは部分的な修繕ではもう対応が限界にきており、そう先ではない将来に全面的な改修が必要かなと思っている。見えないところもかなり傷んでいるといった状況がある。

資料2については以上である。

会 長

特に老朽化、劣化している学校について、今日は4校の説明があった。かなり経過年数も経っており、健全度についても50以下が多く、評価についても非常に厳しいということの説明いただいた。

少しこの4つの学校について質疑応答があればいただきたいと思う。

委 員

最後の2校は鉄筋でまだ耐用年数がきていないということだが、それにもかかわらずここまで劣化をした理由は何か心当たりがあるか。

事務局

第二中学校については海が近いということで塩の影響が大きいということが、推測でしかないが可能性が高いと考えている。

- 委員 例えば少し傷みが出た時に、これから先もそうだが、傷みが大きくなってからでは対応が大変になってくるということがあると思う。それを放っておいたというか、小さいうちに修繕をしなかったという状況があるか。
- 事務局 今までは、事後補繕、症状が出たら手当てをするといったことをずっとやってきて、予防のために前もって色々なところを直していくということはしていなかった。
- 委員 予防ということではないが、クラックも結構大きなものが写真に出ている。これが小さい時に対応ができなかったのかと思う。耐用年数が過ぎていないという話があったので、ここまできたら次のことを考えなくてはいけないと思うが、今後のことも含めて伺ってみた。
- 委員 耐震補強のことで、資料によると美川小学校と松原小学校の体育館の欄に耐震補強についての記載がないが、今のところ耐震補強ができていないのか。
- 事務局 耐震補強は済んでいる。
- 委員 他のところは資料に記載があるが、美川小学校と松原小学校は記載がなかった。資料として記載がないだけで、補強されているのであれば良い。
- 事務局 市内の小中学校の耐震補強はすべてできている。資料の黄色いシートは1枚だけではなく他にもある。代表的に出したもので、ここに載っていないだけであり、耐震補強はすべて終わっている。
- 会長  
事務局 補強はいつされたのか。
- 委員 第四中学校は平成23年度、美川小学校の体育館は平成24年度である。
- 委員 原因を調査して課題が確認されているが、今後の改修計画が決まっているところはあるか。
- 事務局 資料に付けた劣化状況調査は昨年度行い、今年度長寿命化計画を策定する予定となっている。そこで大まかな優先順位を付けながらどの学校を何年度にどれくらいの修繕をするかという計画を立てていくので、今はまだ具体的なものはない。
- 委員  
事務局 今年度の予算化はしていないのか。
- 委員 改修の予算化はしている。雨漏りや生徒に危険があってはいけないので、そういったところを優先的にということで予算化をして修繕はしている。
- 委員 今日発表があったのはこの4校だけだが、予算化されている改修

事務局

学校というのは何校くらいあるのか。この4校だけでなく、他にもあるのか。この4校だけでなく他にもたくさんあると思う。雨漏りとかは腐食したりするため、早めの対応が必要だと思うので、改修計画、予算化されているのであれば、良いと思う。

トータルで今年度 2,500 万円の予算を修繕費として確保している。その範囲内ではあるが、できるところ、先ほど申した様な危険度の高いところを優先的に、授業に影響があつては困るところ、そういったところの対応をする様なかたちでの予算は確保しているが、中々全部の対応は難しい状況である。

事務局

今回4校を挙げさせていただいたが、修繕は当然毎年各学校させていただいている。この4校を挙げさせていただいた理由というのが、昨年度来、今後の耐用年数が10年未満である学校ということで雲雀丘小学校、石見小学校、美川小学校、第四中学校を挙げさせていただいたというところがある。

それにプラスで耐用年数が10年未満というところには当たらないが、第二中学校のように劣化が激しいところ、また、松原小学校についても劣化が激しいということで挙げさせていただいた中で、石見小学校と雲雀丘小学校は見ていただいたり、前回のところで写真で説明したので、今回は見ていただいている他の耐用年数10年未満のところと劣化の激しい2校についてピックアップさせていただき、ご説明させていただいた。

会 長  
事務局

2,500万円の予算の使い道は何校が該当になっているのか。

具体的に何校ということはない。最近できた学校はほとんど修繕は必要ないが、それ以外の学校は大なり小なり必ず修繕が必要になってくる。その中で優先順位の高いものから順位を付けて予算を当てていくというかたちでさせていただいている。

事務局

学校配当というかたちでも修繕予算を組んでいるので、そういう意味でいうと全校に修繕予算が大なり小なりある。大きいものについては施設給食係で大規模な改修をしたり、年度途中でも色々と発生するので、そういったところは予算の枠の中で色々と優先順位を付けて修繕をするというかたちになっている。

対象としては一応全校あるが、先ほど事務局が申した様に、新しい学校、旭小学校や国府小学校の様なところはあまりないので、修繕は少ないが、一応すべての学校に修繕の予算を当てている格好となっている。

委 員

外壁の補修は工事発注すればできると思うが、以前大規模改修事

業みたいなのがあったりしたが、クラックはそういった事業の対象になるのかどうかと思う。もしそういった事業が使えるのであれば、松原小学校などは昭和 50 年度建築なので、そういった事業を使って改修できないのか。中々全部一度には難しいと思うが。

事務局 中々クラックは大規模改修に該当するかが微妙なところがある。国の交付金を当ててできれば一番いいが、大規模改修だと、もっと修繕が必要な場合に該当となる。

委員 弥栄中学校は平成 3 年か平成 4 年に、昭和 43 年頃建築したものがあちらこちら傷んでいたのもので、大規模改修事業に該当して修繕を行った。中々全部をやるというわけにはいかないと思うので、使える事業があれば、使える建物をうまく補修して延命化していくことも手段ではないかと思う。

事務局 そういう活用できるものについてはできるだけ採用したいと思っている。

委員 評価が B、C、D と書いてあるが、何か基準があるのか。どなたが評価をしているのか。

事務局 以前こういった色の付いた資料を配布したことがあると思うが、業者に委託をして専門の建築士が中外すべて見て確認をして、それで評価をしている。

A が概ね良好、B が部分的に劣化をしているが安全上や機能上は問題がない。C が広範囲に劣化をしており、安全上機能上不具合の兆しがある。D が早急に対応する必要がある。そういった基準で評価をしている。

委員 専門の業者が行っているのか。

事務局 そうである。

会長 他はよろしいか。

各委員会 特になし。

会長 資料 2 の劣化内容を見ていただき、質疑応答をしていただいた。次の資料に進ませていただく。

資料 3 の説明を事務局から願います。

昨年 4 回の審議会を行ったが、本日の追加資料の説明と併せて委員方のご意見を伺いたいと思っている。

一定程度に絞って協議をしていきたいと思っているので、事務局より資料 3 の参考資料を説明いただき、ご理解いただきたいと思う。

事務局 事前に会長とご相談させていただいた時に、漠然と全体をやるのではなく、ある程度絞ったかたちの方が進めやすいのではないかと



いうご意見をいただいたので、事務局で資料3 学校統合計画に関する協議の参考資料ということで資料を作らせていただいた。

まず、考え方の1つの原則として同一小学校の児童は、同一中学校への進学とする。現在のところ松原小学校の児童が第一中学校へ行ったり第二中学校に行ったり、原井小学校の児童も一部第一中学校へ行ったり、具体的には紺屋町に住んでいる児童は第一中学校へ行ったりという様な状況があり、同じ小学校でもばらばらの中学校へ行ったりという状況がある。そういったところは、そういうことが起こらない様なかたちにする。それは校区の見直しと学校の統廃合も含めたかたちで、どういう方法でやるかということがあがるが、方向性、考え方がまず第一の原則である。

2つ目として、老朽化の学校については、単独建て替えか学校統合を検討すると書いてあるが、基本的なスタンスは、子どものことを考えることが第一だが、財源的なことも考えた場合に学校統合をする方向性で考えて、やむを得ずという場合には単独での建て替え、という考え方を持っている。その2つが大原則というスタンスでいる。

個別の学校について説明すると、耐用年数が10年未満の雲雀丘小学校、美川小学校、石見小学校、第四中学校に加えて、先ほど説明した劣化の度合いの高い松原小学校、第二中学校も対象として示している。

この6校について、今後10年間で全部をやるというのは現実的には難しいのかなと思っているが、あくまで協議をする上ではここくらいまでのところで協議していただき、これを最終的な答申の段階では、どこまで答申に挙げるかということはその先で検討していただければと思っている。

1つ説明させていただくと、雲雀丘小学校については59人の児童がおり、見ていただいたとおりかなり老朽化している状況である。

考え方として2通りある。雲雀丘小学校については廃校として隣の学校である原井小学校へ編入するという考え方。金額的にはあくまで概算だが、学校の解体費は約1億円程度かかる。

学校の場所を現地か、場所を変えるかということは別にして単独建て替えをした場合には、直近のところで旭小学校の経費を参考にしたかたちで18億円程度かかる。

この様などちらかになるかなと思うが、それぞれあくまで(1)が主とした考え方として持っている。

美川小学校については老朽化しているということがある。第四中学校とも関係するが、敷地、学校の箱モノをどこに建てるかという問題もある。美川小学校と第四中学校は隣接している学校で両方とも廃校にするということは中々地域の考えも了解を得にくいだろうと思うので、まず部活動や少人数のところでは難しい第四中学校を第三中学校へ統合するといったスタンスで、美川小学校については現地で単独建て替え、もしくは公共施設の再配置計画にもあるが、単独の学校だけではなく、できるかどうかということは別にして幼稚園や公民館だとかの複合施設にすることによって多少なりとも補助金の対象となるという制度があるので、そういったものを活用するという考え方が(1)である。

それから(2)は廃校にして、距離的に長浜小学校と周布小学校だと少し長浜小学校が近い。美都線の道路の関係で長浜小学校へ出る方が周布川沿いに周布小学校へ出るよりも交通の便を考えた時にはいいのかなというところで、長浜小学校への編入といった案を出している。

石見小学校については11月に見ていただいた様に施設や耐用年数の関係が大変古くなっている。メインの考え方としては、次の松原小学校へも関係するが、松原小学校の一部を含めて編入をすることで松原小学校の一部と石見小学校の統合校とするということで、何らかの国からの補助金の対象となる。単独建て替えでは補助金が出ないので、一部でも統合するということで補助金を受けられる可能性がある。

石見小学校については単独建て替えで25億円必要だが、松原小学校の一部を編入したとした場合にはクラスが増える可能性があるので、そのあたりは人数の具合によって何クラス増えるかということを試算しづらい状況のため、プラスアルファというかたちで書かせていただいている。

(2)として単独建て替えした場合には25億円、児童・生徒の数が現在378人いるので、それくらいの金額が必要となる。

(3)は極端な例であるが、石見小学校、一番大きい学校を廃校として近隣の三階小学校や松原小学校へ校区割を変更していく。その場合は当然三階小学校も原井小学校も増築が必要となる。

どれを選ぶかということは別にして、可能性として書かせていただいている。

松原小学校については、先ほどの石見小学校との兼ね合いで廃校

にして、石見小学校との統合を主に一部の地域を原井小学校、三階小学校へ編入と考えている。

松原小学校の校区のイメージを持っていただけるかどうかだが、松原小学校の校区の東側、線路から浅井町4町内、5町内、6町内のあたりのところは石見小学校が近いかなと思う。松原、殿町、外ノ浦あたりは原井小学校の方が近いかなと思う。それから川の南の朝日町や牛市とかは三階小学校が近いのではないかというところもあるので、距離的なことを考えた場合には、松原小学校を廃校にした場合にはその3校に、現在の子どもたちは分かれてしまうことになるかもしれないが、そういった方向で考えて松原小学校を廃校とする、という考え方がある。

石見小学校を松原小学校の統合校にせずに単独建て替えとした場合には松原小学校の単独改築ということは中々すぐのことにはならないかなと思っており、今回の計画には乗せずに、次の計画の時にまた検討するという方法も1つかなと思っている。

中学校に入るが、第二中学校については本日説明させていただいた様に、かなり海風とか塩害の影響で劣化が激しいという状況がある。

これも極端な例の2つしか挙げていないが、廃校として、距離的にはあるが、第一中学校へ編入する。ただ、丸々行く場合には第一中学校も増築しなければならない可能性がある。

単独建て替えした場合には25億円程度の経費が必要となる。

第四中学校については廃校として第三中学校へ編入とする。ただ、第四中学校は現在37人の生徒数なので、現行のままであれば第三中学校へ行ったとしてもクラス数には影響がないくらいの人数であるというふうに思っている。

解体費としては1億円の経費が必要となる。

単独建て替えした場合には、生徒数が少ないので額が少ないが、20億円の経費が想定される。

今6校について説明させていただいたが、この6校をあくまで議論の参考というところで、それ以外のところとか、そこまでは今はいいのではないかということなど議論いただければと思う。

### 3 協議事項 会 長

あくまで協議の参考資料ということで説明いただいた。委員方もそれぞれ思いがあると思う。6校について説明いただいたが、

その6校だけでいいのか、あるいはほかの学校も含めるのか、さらにはもっと絞っていくのか、そういった点をまず委員方に議論いただきたい。

何かないと協議に入れないと思うので、敢えて今日は参考資料として事務局に準備いただいた。ご理解いただき、そういったことを踏まえながら、まずは説明された学校だけでいいのか、それとも他の学校も含めるのか、そのあたりから話していきたいと思う。

委員方の率直なご意見をお願いしたいと思う。

委員

色々と説明いただき、児童・生徒数が減っているということは分かるが、こういう学校の今後の児童・生徒数の見込みは長期的に見たらどうなるのかということを考えなくてはいけないと思う。

人口変動は団地が1つできるだけ違う。東京ではタワーマンションが建つと小学校を1校造らなければいけないといったことがある。しかしそれは年数が限定になる。

現時点ではこうだが、将来的にはどうなるのか。統合したあとに実は増えた、という様なことはないだろうか。

事務局

今後の10年間については以前の審議会でお話している。

今の子どもが6歳から下のところしか現実的には生まれていなくて、それ以降、例えば30年、50年まで推計するという事は中々難しい状況である。今後10年間については第2回の審議会でも示させていただいているが、やはり子どもの数が4,000人を切った状況から3,500人くらいまでは10年間でも500人くらい減るのではという推計になっている。

先ほど言われた様に団地ができたりといった部分は可能性としては当然あると思うが、ただ、今の時点でそのためにこの学校は残そうということは中々判断が難しいので、当面2、3年のうちに大きな都市計画とか含めて、そういったものが出ているのであれば考慮できるが、そうでなければ中々その先までということになると、人口が減る推計になるにもかかわらず学校を増やすとか教室を増やすとかいうことは現実的ではないと思っている。

今の段階ですごく先を想定して造る、残すということはなかなか難しいかなと思っている。

委員

参考資料を付けていただいているが、例えばこの学校を統合、建て替えという様なことを実際に行うとなると何十年もかかる。

事務局

1校建てようとした時には、設計が初年度にあり、あと2か年で校舎と屋体と分割しながら、2年目に体育館をしたりとかいったことが、これまでの標準のパターンで大体3年くらいが1校あたりの新築の場合にはかかる。

補助金をもらったり、起債借金を受けたりとというところの流れでいえば1校あたり大体3年くらいがスパンなので、今後の10年間の間で新しい学校を造ろうとした場合でも3校程度までが財政的なことも含めて限界かなと思う。

10年間で一度にしたら106億円かかるといった説明をさせていただいたかと思うが、中々現実的に財政的に確約できない状況もある。新設するとしたら最大で3校、もしくは2校。取り壊しの学校も含めてプラスアルファで1校、2校くらいまでのところが経費的などころになる。本当は経費が先の話ではいけないのだが、そういった状況になってしまうのかなと思っている。

会長

冒頭の生徒数の一覧の中でも、すでに平成29年度に4,000人を切っている状況がある。そしてまた、平成30年度のところでもさらに減少しているということで、ずっと減少傾向であるといった状況の中で、大変難しい問題であると思う。併せて財政が非常に厳しい状況であるので、もっと慎重に議論を重ねていくべきだと思っているが、色々な問題を検討しながら進めていかなければならないと思うところである。

ただ何かたたき台として出ないと中々話も進まないなので、今日のところは参考資料を出させていただいた。

委員

中学校関係で第二中学校が第一中学校へ編入という考え方が出ているが、第一中学校の建築年度が昭和55年3月になっており、大体他のところも同じ頃にできている。第一中学校の校舎は大丈夫か。あまり傷んでいないのか。

事務局

傷んでいないわけではないが、それなりに30年経っているので傷みはある。しかし、中々第一中学校と第二中学校を統合して新たな場所を設けるとかいうことになると難しい。

子どもが増える部分については増築するとかいうことでないと難しいのかなと思う。ただ、学校についてはいい状態とは言えない。

委員

残の耐用年数がまだ20年くらいある。そうするとまた20年経ったらどうするのかといった話に結局なると思う。そういうことも考えておかないと、当面やればよいという様になる。生徒数も

かなり大きくなる。

委員

私たちのこの審議会の基本的な考え方、スタンスというのは第2回の時の資料を見させていただく中で今後10年間のシミュレーションの資料を出していただいているが、今お話があった様に何十年も先のことを考えても中々世の中変わるとは思えない。

当面この審議会としては10年スタンスでどうやっていけばいいかということを検討していくという考え方でいいか。

事務局

そうである。概ね10年くらいを見て、どの様にしたらいいかを話し合っていて方向性を出していただけたらと思う。

確かに20年、30年先まで見て審議してもらえれば一番いいが、中々そんな先のことを審議していただくことは難しい。私たちも20年、30年先のこと、例えば先ほどあったが、児童・生徒数のシミュレーションができるかというところと中々難しいところがある。

委員

一応10年先のシミュレーションでは4、500人くらい生徒数が減る様なものになっている。当然今の様な話が検討されることも理にかなうと思う。

ただ、今日もあった建物の老朽化の観点から統廃合が検討されるとか、生徒数や色々な地域背景とかで統廃合が検討されるのか、非常に難しいことが出てくるのかなと思う。

事務局

当然子どもの数も関係してくるが、建物の調査もして、すでに10年持つかどうか分からない状況も出てきている中で、いずれはその建物を建て替えるなり、統合するとか、そういったことをしないと単なる修繕では収まらないというところがある。そういったことも含めながら統合について委員方のご意見をいただければと思う。

委員

この審議会の検討内容は行財政審議会とのリンクというのはある程度兼ね合い、連携を持っているのか。

事務局

直接行革とは絡めていない。今後の施設の再配置計画等があるが、これについてはこれから新しく学校を造る場合は複合、そういった方向性があるので、中々単独で、はいどうぞ、といった様なことには市としてはならないかもしれない。

委員

地元の地域協議会等でも説明を色々聞かせてもらうが、少し市の財政、今後の方向性が非常に心配な内容を聞かせてもらっている。

ただ、老朽化の問題だけで統合して、単独で建築するといった様な簡単な答えは出ないのではないかなと思う。

事務局

当然学校の数が多いとそれだけランニングコストもかかるので、そういったことを考えるとできれば数を少なくした方が良いのは間違いない。中々そうはいつでも、学校を1つ閉校するという事はかなり地域にとっては大変なことだと思っている。

委員

美川の話もされたが、簡単に経費の問題とかだけで小学校も中学校も廃校という様なことにはいかないと思う。

事務局

第四中学校の場合はもう全校で37人ということで、部活動をするにしても男が1つ、女が1つくらいの選択肢しかない状態になっている。各自治区も同じ様な感じかもしれないが、色々な選択肢を持たせるためにも少し大きい学校ということも子どものためにはなるといった考え方もありかなと思っている。

会長

本当に中々難しい問題だが、今話があった様に、先々のことも十分考えなければならぬが、10年スタンスの中で考えざるを得ないのではないかと思う。

繰り返しになるが、財政的な面もあるわけである。それから統廃合ということになれば地域との関係も出てくるわけであり非常に難しい問題だと思うが、一応我々に与えられた諮問に対して何かの方向性を出さねばならない。

委員

第四中学校の校区は幼稚園、小学校、中学校と一緒に運動会をしていると聞いたことがある。例えばそういったことをしていた時に、先ほど一度に無くすのは、という話があったが、例えば先に中学校がなくなり、今までの様に行事ができないということになると、反対に地域住民の方からすると、だったら両方一度に移動するのが良かったのではないかという、ひょっとするとそういう思いも出てくるのではないかと思う。

部活動の問題で中学校を先に統合という考え方も分かるが、果たしてそれが地域住民の方にとって本当にプラスなのかなと思う。

私たちは資料を見るだけでは地域背景のことは分からない。例えば保護者の方の中にはきっと統合や廃校ということも思っている方もおられるかもしれない。非常に財政が厳しいことも分かっているが、バランスとかここを先にとすることは中々こちらが思っていることだけでは済まないと思う。

こうします、と決めた後にそうではなかったということにならない様な話し合いを地域ともできたらと思う。

事務局

この中には挙げていないが、美川小学校と第四中学校の場合に

委員

はあくまで可能性だが、小中一貫という考え方もある。箱を建てて、そこでやっていくという考え方もできないことはないと思っている。しかし、最初から資料に挙げるのも、委員方から意見をいただいた中で方向性を決めていただくことを、こちらが誘導してもいけないので、こういった考え方もあるということである。

鳥取県でも幼小中が一緒のところがある。人口減少で過疎化になるのであれば全部行政含めてという話もされていたので、美川の地域性のことを考えるのであれば、それもありがたかなと思う。

今でいうと、浜田東中学校は有福、宇野、上府、最終的には国府小学校を1つにまとまってしまうという状況もある。距離もあるので色々問題もあると思うが、美川のことを考えればそちらの方が良いのかなと思う。

ただ、地域のことを言い出したら国府小学校の時もそういうふうにしてくれたらよかったと思われるし、それもまた難しいのかなと思う。

ヒアリングしても、大体地域の方々は失くすということにはノーといわれる方しかいないと思う。

昨年もお話したかと思うが、雲雀丘小学校と石見小学校と国府小学校が前年から話に出ていて、雲雀丘小学校は廊下が反っている状態と聞く。雲雀丘小学校は子どもの人口数が10年後のシミュレーションでは増えている。しかし建物自体がもう勉強できる状態ではなく、何かあった時にはすぐだめになる状況でもあるので、そうした場合であれば、今美川小学校のこともあるが、今の状態でいくと雲雀丘小学校も状態はだいぶ深刻なのではないかと思う。

優先順位を決めるわけではないが、子どもの数とかではなく、あくまで建物の状態が悪い中での勉強というのは、この前大田でもあったが、地震などがあった時にもっと早く検討するべきだったのではないかということもあった。そうした場合に一番優先的に考えるとしたら雲雀丘小学校の話を挙げて、それから美川小学校と第四中学校の話をしてもいいのかなと思う。

この10年間ですぐ見直さなければいけない場所は、雲雀丘小学校が木造でもあるし、そうかなと思う。

美川小学校と第四中学校も木造か。

美川小学校と第四中学校は木造だが、雲雀丘小学校は一応鉄骨である。

事務局



委員

雲雀丘小学校のエリアでいくと、地域性もあり、地元の方が少なく転勤族が多い。そうした場合にまとまるかといったらまとまっていないところもあるということを知った。そこに思い入れを持っている方も少ないかもしれない。数少ない地元の人から見たら、なくなるとどこに行くかという距離も出されている。原井小学校と長浜小学校に行ったら、歩いて3キロくらいの差だと思うが原井小学校が近いところがある。

今日は新たな4校が出てきたが、危ない、修理しないといけないということで雲雀丘小学校の名前が挙がってきていると思うので。

先ほど言われた小中一貫というのはいいなと思う。学校がなくなれば経費もだいぶ変わってくると思う。

事務局

小中一貫は確かに他にも例がある。小・中を1つにして、コンパクトにということはある。ただ、先ほども申した中学校の部活の問題とかは解消されずに残る。

先ほど委員が言われたが、私も全部は把握していないが例えば第四中学校区だと自分のしたい部活がないから部活のある違う中学校へ校区外通学するパターンも実際には起きている。

生徒の希望を叶える様になると、中々小さい規模では難しい部分も出てくるという状況も一方にある。

委員

先ほどの委員の意見に大賛成である。最近では中高一貫教育までである。中高一貫については一番近くでは北広島町、昔の芸北町にある。3年くらい前からやっている。全国から視察団が来ている。

そういう時代がどんどんローカルに入ってくる。

どうしても今は各自治区単位の小学校が統合して1校しかないという状況になっているので、そうなってくればやはり小中一貫教育といった様な道も前向きに検討する必要があるのではないかなと思う。

ただ、建物の老朽化の問題は避けて通れないと思う。もう1つは地域の活性化の問題、学校というものは非常に重要な内容を抱えている。単に統合・廃校という話を最初からするのは、私たち審議委員も地域の代表として出席をしている。私も小学校の評議員であり、まちづくりの代表でもある。自治会長でもある。

そういった立場の中で子どもたちだけのことを考えて、教育のことやクラブ活動の問題とかいう様なことをいえば、大きい塊の

方が一番いいのかもしれない。

例えば一番いい例は、近年波佐の隣の地域になる、小国小学校が統廃合したが、雲城小学校と統合した。

保護者の方々が大きいところに子供を通わせた方がいいという最後の殺し文句で、全く検討の段階にならなかった。

地域を挙げてどうしてもお願いをしたいという意見だったが、保護者の方々から言われたらこれ以上ないので仕方なかった。

今になって運動会も一緒にできないし、大きい学校へ行って運動会へ行っても自分の子どもがいつ出たのか分からないなど言われる。

波佐小学校は一番小さい学校だが、運動会をする時のあいさつの中では、保育園も小学校も敬老会も地域の人もみんな総出で大運動会をやる。こんな恵まれた学校はない、とかえってみんな思い出が多く、地域も活性化するし、絶対にこういうことを大切にしましょうということを話す。毎年このことを話す。

学校というものは地域にとって非常になんともいえない存在なので、そういうことも少しは頭に入れて地域再編をする必要があるのではないかと思う。

会 長

色々ご意見を出していただいた。特に今、委員からもあった様に順位の問題も出た。また小中一貫校あるいは中高一貫校、そういったことも含めて色々話が出てきたところである。減少傾向の中でそういったことも含めて考えるのも必要であるが、今日は特に説明のあった6校の関係で少し絞って協議をするのか、他にも増やして協議をするのか。色々な考え方があると思うが、そのところを今日はある程度集約しておいた方が良く思う。

これから答申にこぎつけるためにはある程度絞って集約していかないと中々答申にならない。決して先を急ぐわけではないが、一つひとつ前に進まなければならないと思う。

委 員

確認だが、先ほどから小中一貫についての話が出ているが、事務局が言われた小中一貫のことと一緒にすることか。こちら側がいうのは小中を1つにして新しく建てるということだと思うが、一緒のことか。

事務局

今の美川小学校と第四中学校の建物で1校にするということは難しいと思っているので、小中一貫にするのであれば新しい建物を建てるしかないと思っている。

委 員

新しいもので小中の1つの建物を建てるという案もあるという

事務局  
委員  
事務局

ことか。

そうである。委員方の意見によるが。

先ほど部活の問題とか話されたが、それはクリアができない。

そうである。そういったことで、どういうふうにすることがいいか、地域重視でいくか、言い方が違うかもしれないが子どもたちの部活重視でいくか、何をメインとして方向性を出していただけるかということになると思う。

委員

私は三隅町の岡見地区であり、資料を見ていただくと分かると思うが、岡見小学校も大変小さい学校で段々子どもたちも少なくなる学校である。随分前になるが、中学校もなくなった。私は仕事の関係で保育所に勤めているが、保育所もなくなっている。大きいところに吸収されるというかたちで子どもたちが少なくなってきたので、そういうかたちになってきている。もちろん地域のことを考える必要もあると思う。ただ、私の子どもが中学3年生の時に岡見中学校が廃校になり三隅中学校になった。

何をメインに考えるかということだが、経験した私からいうと、大きいところ、三隅中学校もそんなに大きいわけではないが、ある程度仲間がいて、岡見中学校の時には1クラスに男子が5人しかいなかった。その中で仲間を見つけるということは中々難しかったこともある。やはり新しいところに行って元気を取り戻したという経験もしているので、そういう子どもたちだけでなく、地域の中で色々な地域の方々に育てていただいで大きくなるということももちろん大事なことであるが、やはり何をメインに考えるかということになると、子どものことを一番に考えていく方がいいのではないかと思う。

色々な資料をいただき、方向性をという話だった。他の考え方もどうだろうかということだったが、やはり今まで視察に行かせていただいたり、こうやって劣化の状況等を見させていただく中で環境を整えることが一番ではないかと思う。老朽の著しいところを優先的に考えていったらいいのではないかと思っている。

建築年数でいうと雲雀丘小学校が一番古いのか。今日資料をいただいた中で建築年数ではないが、評価が一番低かった松原小学校、こちらは昭和52年の建築で、外観だけであれば補修ができるのかなという気持ちでいる。健全度が40ということになると随分危険とまではいかななくても早急に対応する必要があるのではないかと思う。

委員

この審議会で地域性を考えたりして、会議ではベストだと思う答申を出すわけだが、その後、教育委員会が責任を持ってされるのだと思うが、順調にはいかないだろう。何十年もかかる場合もある。現在でも教育委員会が話してまだ実現しない学校関係、幼稚園関係の施策もある。その辺を考えてどういうふうに答申を出すのかと思う。こうだ、と答申を出しても地域の方々から恨まれそう。

事務局

答申を受けて教育委員会が統合計画を作る。当然審議会の答申を尊重して作るが、最終的にはその計画は教育委員会の責任で作る。

委員

すごくまとまりのある地域性があるところに対し、統廃合ということを簡単に言えないだろうと思う。

委員

上府の時にはどういうかたちでお話をされたのか。あまり説明会に参加されなかった。私も元々統合には反対でいた人間である。公民館でお話されたと思う。3回くらいされたがアナウンスが少なく参加された方が30人にも満たない様な感じだった。

私の反対は芝にする必要があるのかないかなだけだったので、国の補助が出るということも聞いたのでいいかなと思ったが。

上府や有福はスクールバスの関係もあったり、それも統合ありきだと4、5年くらいかからないくらいで話がまとまった記憶がある。

上府は運動会も地域でされるなど地域性の強いところだが、どの様に納得をされたのか。

仮に美川小学校が小中一貫にできなかったとして第三中学校へ行かなければならなくなった時、特に地域性の強いところほど、殺し文句ではないが納得させるものがあるのか。

先々禍根が残るものである。三階小学校と後野小学校が統合する時には、石見小学校とどちらがとるかもめたと思う。佐野小学校も統合する時に色々あったと聞いたことがある。三階小学校に入れてあげるというようなニュアンスで言われたとか聞いたことがある。

結果として、統合して何年か経てばそういう話もあったというふうに風化していくのかもしれないが。保護者によっても考え方が変わってくるので、先々では考えが変わってくるかもしれない。現状では色々あるかもしれないが、よかったということになるかもしれない。

事務局

殺し文句かは分からないが、統合の理由というところで有福小学校は児童数の減少である。上府小学校は色々とアパートも建ったりして児童数はそんなに減少はしない様な見込みがあり、あまり減ってはいなかったが、上府小学校については建物上の理由である。校舎も古かったし、体育館も体育館ではなく講堂というかたちで、天井もすごく低かったこともあり、上府小学校は建物の部分で今後どうするのかというところで、単独で建て替えるのか、国府、上府、有福の新しい統合校で新しい校舎を作るのかということで、単独建て替えではなく、新しい統合校ということになった。

統合理由としては上府と有福では違うが、この建物でやっていくのは難しいというところがあった。

委員  
事務局

上府単独で建て替えてほしいという話はなかったのか。

どこかでそういった話はあったと思う。最終的には統合というかたちになった。

事務局  
事務局  
委員

あの敷地では建て替えできない。

上府小学校の現地での建て替えは無理である。

踏み込んだ話をしてはいけないかもしれないが、統廃合なり適正な学校のあるべき姿の答申をする内容の中で政治に踏み込んだ内容になってきた場合にはどこが強力に市長へのアピールができるのか。

要するに、明日の将来を担ってくれる若い子どもたちを何とかいい環境の中で立派な教育なり総合的なしつけをしていく様な大切な事業なので、政治的にも前向きに率先して予算を向けていただくという様な基本的な考え方を誰が持ってくれるのか。

施政方針の中で市長がそういうふうと考えていただければ何ら問題ないと思うが、歴史資料館を造るといった話や開府 400 年を先にしないといけないという話がある一方で、学校教育は予算がないので建て替えができない、更新もできない、しかし祭りごとはどんどんやりたい、少し順番が違うのではないかという様な強力な意見をこの審議会が意見を付け加えて言うことができるのかどうか。

私たちは子どもたちのことを思って今一生懸命どうしたらいいかということは何回も審議している。ただ、建て替えや統合だけの問題ではない。

答えにくいかもしれないが、かねがね私は疑問に思っている。

事務局 答申においては、こういう方向性で何にもまして優先的に取り組んでほしいという様なかたちの文言くらいであれば答申に挙げることは問題ないと思う。

委員 あれを止めてこっちをやってとはなかなか言えないのだろうが、順番がおかしいと思わないか。

事務局 それはお答えし辛いところである。

会長 中々今の委員が言われることについて、事務局としては答弁しにくいと思う。先ほど委員が言われたとおりであり、文言についても十分検討がいると思う。

委員 これまでの市でやろうとされることに対しても色々と私たちも思う部分もある。心配することも多々ある。

会長 我々も大変大きな使命を受けたわけで、何としても答申というかたちにしなければならない。ここでの検討も必要だが、地域がどうしてほしいのかということも考える必要がある。

統廃合の経験をしてきた委員方もたくさんおられるので、そういったことを考え合わせた中で最終的な答申を考えていかななくてはならないと思う。

今日事務局から提示された6校で考えていくのか、あるいはこれを減らすのかというところだけは今日結論を出していただきたい。本来ならこの1校ずつを協議していただきたいと思うが、中々難しいかと思うので、今日はあくまでも参考資料として提示された小学校4校、中学校2校をまず1つの的としてこれを次回も検討を進めていく。

事務局からもあった様に最大で3校が限界だという話もあったので、そういったことも踏まえながら次回集約していきたいと思う。

委員 この6校以外に当面問題がある学校はないのか。

事務局 ないとは言い切れないが、今回参考資料として建物の観点で出している。当然児童・生徒数からという観点から見るとこれだけではない。

事務局 単純に40年を経過しているもので言えば雲城小学校や今福小学校や金城中学校がある。ただ、全て含むと10校くらいになり、中々絞るというところをどこまで絞っていくかということになる。10校検討した上で答申の中では5校に減らす、4校に減らすのか。今回挙げさせていただいた6校の中で絞っていくのかということ。間口を広げた方がいいということであれば、最初は10

- 校とかで検討してもいいとは思う。
- 委員 77年も経っているところを差し置いて40年経過しているところからというわけにはいかない。どこかの段階で絞り込む必要があると思う。
- 委員 特に昨年11月に石見小学校と雲雀丘小学校を視察したが、かなり老朽化が進んでいた。
- 委員 そういったところで個人的にはこの6校以上に増やして検討するという事は難しいのではないかと思う。そうでなくて間口を広げて検討するべきではないかという意見もあるがいかがか。
- 委員 この6校の中で校区の再編をすれば廃校にしなくていいところもあるのではないか。例えば第二中学校は校区の一番西にあるわけで、みんな遠い。見るところが第三中学校の校区である。そういうところを再編したら第二中学校は人数が増えるだろうと思う。距離を考えて。
- 事務局 今ある第二中学校を中心としたエリアに切り替えてという意味だと思うが、そうすると熱田は第二中学校へ行くということだと思う。そうすると第三中学校の生徒が減ってしまい、第四中学校をなくして統合するというかたちにしないと第三中学校が極端に減ってしまう。
- 委員 前回も申し上げたと思うが、いわゆる校舎建築をした時に校区がまったく考えられていなかった。50年代に松原小学校が山の手に行った時にまったく校区が考えられていなかった。第二中学校が端に行った時も考えられていない。そういうことがあり、子どもは非常に遠くへ行かないといけない様な状況がある。
- 委員 ただ、そういった校区再編をやるとまた納得を得ることが難しいと思う。一番典型的なのが紺屋町である。あそこだけはおかしい。
- 会長 校区の再編も大変重要なことだと思う。
- 委員 校区については以前資料をいただいている。今言われた様に長浜と熱田に変わった時の人数が、もし割れた時の人数も資料で出されている。そんなに極端に変わることはなかったと思っている。
- 委員 再編ありき、雲雀丘小学校がなくなる前提で話をした時には、第二中学校に行くのか第三中学校に行くのかという時に、熱田から来られている方は長浜に行くといえども子どもの数も変わる。同じ町内でも子どもの数が割れる可能性もある。
- 委員 朝日町も子どもが同じ町内の中でも石見小学校、三階小学校、

松原小学校に行ったり、3つに分かれているところもある。

再編でいくのだったらその話で年度末ではまとまっていたと思うが、今回また4校増えてきたので、それも含めて加味したことで、地域の件も含めての話なのかなと思う。

この文面には載っていないが、通学区域の見直しということも書いてあるので、振り分けについても検討するのだろうと思っている。

事務局

基本的な考え方のところ、同一小学校の児童は同一中学校へ進学するというところがまず第一というスタンスで思っている。そうすると先ほどの学校がどうなるのかということと併せて、古い学校をどうしていくかというところの兼ね合いの中でどう上手にまとめていただけるかということになってくると思う。

事務局

先ほど2人の委員からご意見をいただいたが、第二中学校をどうするかということも、今日のところでこの6校を中心にいくということになれば、次回のところで雲雀丘小学校はどうしていくのか、第二中学校はどうするのかといった時に、例えば第二中学校を単独建て替えして、第三中学校の校区を一部入れてということも1つのご意見の選択肢の中に出てくるかと思う。

今後、今回は個別にこの学校についてどうかというかたちの中で、統合であるとか建て替えであるとか検討するうえで、当然どちらにしてもそういった校区のところも付いてくるかたちになる。

先ほどの同一小学校から同一中学校の部分でいくと、松原小学校を残すということになる場合、校区が今第一中学校と第二中学校に分かれているので、それは見直さないといけないということに、また松原小学校の話の中で出てくるのかなと思う。

委員

私の意見はこの6校で話して、どこに変わったとしても同じ地域なので考えやすい、まとめやすいということもあるので、今回4校増えるのであればこの6校で話をし、一番頭にくるのが雲雀丘小学校を優先的に考えてあげた方が良いのかなと思う。

会長

色々な意見をいただいたところだが、意見を集約する中で一応今日参考資料としてご提示いただいたわけだが、この6校以外に他の学校を加えるということは非常に難しいかなということなので、まずはこの6校を基に検討して、さらにこれから絞っていくということよろしいか。

各委員

全会一致で承認



会 長                    ありがとうございます。  
                              次回この 6 校の中身について再度協議していただくということにしたいと思う。特にこの 6 校に関して詳しい資料があれば出していただきたいと思う。校区再編の資料については以前の資料の中にあるので、それを参考にさせていただきたい。

委 員                    以前いただいた資料をこの 6 校分だけに集約していただくと検討しやすい。

事務局                   過去に配布した資料を 6 校分だけにした同じもので良いということか。

委 員                    例えば校区等の資料はもらっているのに遡ればいいが、該当校だけで示していただけるといい。

会 長                    学校一覧にしてもらえばなおよい。事務局は大変かもしれないが、お願いしたい。

事務局                   承知した。  
                              先ほど雲雀丘小学校の建物の話があったが、違ったところがあったので訂正させていただく。校舎は木造で、体育館は鉄筋コンクリートである。美川小学校の体育館は鉄骨である。申し訳ない。

#### 4 その他

会 長                    本日はこれで終わらせていただく。  
                              次回はこの 6 校について再度絞っていきたいと思う。  
                              次回の日程等について説明をお願いします。

事務局                   本日は色々とありがとうございました。  
                              6 月は議会が始まるので、中々 6 月議会が終わるまでは余裕がないところがある。6 月議会が 7 月 3 日に終わる予定なので、7 月 3 日以降から 7 月中旬までのところで次回が開催できればと思っている。また日程についてはこれまでと同じ様に午前・午後、夜とかいったかたちで日程のいいところをまたお知らせいただく様なかたちで通知させていただく。その中で参加できる方が多いところ、全員揃ってもらうところが一番いいが、そこで調整させていただく様なかたちを考えている。  
                              またご案内させていただく。

会 長                    事務局から説明があった様に 6 月は議会があるので、7 月中旬にということである。詳細はご参加のご案内をお送りするという事なので、日程調整していただければと思う。  
                              今日は大変遅くまでありがとうございました。

